

# 学則別表3-1

施行日 2017年4月1日

岡山商科大学 学部 3つのポリシー

025

# ディプロマ・ポリシー(DP)

## 1. 学位授与の基本方針

岡山商科大学では、「教育理念」において社会事象を的確に捉え、分析し、創造的に問題を解決することができ、かつ、心豊かさ(文化的知性)を有する人材の育成をすることと定めており、これを具現化するために、次に示す「学力の3要素」の9項目に関して学修目標を達成した学生に対して、客観的な評価をし、学位を授与する。

なお、本学では就職率100%を目指して、各学部学科ではDP9項目の到達目標を達成し、社会で活躍できる人材を育成する。

その際、各学部学科において、次に示すDP9項目に関して、履修すべき科目、単位、達成目標について示している。

## 2. DPで習得すべき「学力の3要素」の9項目

学力の3要素		事項	ディプロマ・ポリシー(DP)	
1	知識・技能	専門知識	DP1	法学、経済学、経営学、商学に関する専門知識の習得
		一般知識	DP2	社会科学の種々の問題を的確に捉える幅広い一般知識の習得
2	思考力・判断力・表現力	思考力	DP3	社会事象を論理的、創造的に思考する能力の習得
		判断力	DP4	社会事象を的確に捉える洞察力と判断力の習得
		会話・文章力	DP5	テーマ内容を的確に表現・伝達する日本語・外国語能力の習得
3	主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・態度)	意欲・責任感	DP6	社会事象に積極的に参加しようとする意欲と責任感の習得
		協調性	DP7	多様な人々と協調して主体的に活動するリーダーシップの習得
		持続性	DP8	生涯にわたって学び続けようとする態度の習得
		倫理観	DP9	社会のルールを守る倫理観の習得

### 3. 履修すべき科目と単位

#### 3.1 法学部 法学科

下記の条件を満たす学修成果を上げれば、卒業を認定し、学士の学位を授与する。

##### (1) 法学科で何ができるようになるのか。

###### ① 知識・技能

法学、政治学の専門知識を習得する。  
汎用性のある基礎的能力を習得する。

###### ② 思考力・判断力・表現力

法律の条文を解釈して簡易な法律上の問題を解決することができる。

###### ③ 主体性・態度

法律や政治や行政に関心を持ち、専門知識を生かして社会に貢献することができる。

##### (2) 特に学位授与に必要な評価基準、資格等

特別な評価基準、資格等の指定はしていない。

##### (3) DP9 項目と学位授与に必要な科目群及び単位数との関係

学位を授与されるためには、以下に示す科目の単位数と学力の3要素を満たしていること。

ディプロマ・ポリシー(DP)と科目群

学 科	法 学 科										学 科	学 科	学 科	学 科	学 科	学 科	学 科	学 科	留意事項																														
	学 力 の 3 要 素	事 項	分 類	教 養 科 目				演 習 科 目											専 門 科 目					キ ャ リ ア 科 目																									
				30以上				16											88以上					6																									
				6		4	4	12	4	4									8	2	12	48			14	2	2	2																					
学 力 の 3 要 素	事 項	分 類	I 群		II 群	III 群	外 国 語	健 康 教 育	そ の 他	演 習 (必 修)		共 通 必 修	選 択 必 修	自 由 選 択 科 目			そ の 他	キ ャ リ ア 形	"	"																													
			位 以 上	各 群 2 単	位	位	位	位	位	位	位	位	位	位	位	位	位	位	位	位	位																												
			位	位	位	位	位	位	位	位	位	位	位	位	位	位	位	位	位	位	位																												
学 科	学 科	学 科	学 科	学 科	学 科	学 科	学 科	学 科	学 科	学 科	学 科	学 科	学 科	学 科	学 科	学 科	学 科	学 科	学 科	学 科	学 科	学 科	学 科	学 科	学 科	学 科	学 科	学 科	学 科	学 科	学 科	学 科	学 科	学 科	学 科	学 科													
1	知識・技能	専門知識 DP1									○	○	○	○																																			
	一般知識 DP2		○	○	○	○				○	○						○	○	○					○	○	○																							
2	思考力 DP3									○	○			○	○																																		
	判断力 DP4											○				○	○																																
	会話・文章力 DP5							○																																									
3	主体性・態度 DP6																																																
	協調性 DP7							○						○	○																																		
	持続性 DP8							○		○				○																																			
	倫理観 DP9																																																

### 3.2 経済学部 経済学科

下記の条件を満たす学修成果を上げれば、卒業を認定し、学士の学位を授与する。

#### (1) 経済学科で何ができるようになるのか。

##### ① 知識・技能

経済学に関する専門知識や技能のみならず、幅広く深い教養知識を習得する。

##### ② 思考力・判断力・表現力

理論を踏まえて、私たちの直面する経済問題の解決策を作成することができる。

##### ③ 主体性・態度

他人に共感できる感性をもち、社会と積極的にかかわっていく能力を身につけ、社会に貢献することができる。

#### (2) 特に学位授与に必要な評価基準、資格等

大学院に進学できる程度の高度な経済学に関する専門知識を習得する。

#### (3) DP9 項目と学位授与に必要な科目群及び単位数との関係

学位を授与されるためには、以下に示す科目の単位数と学力の3要素を満たしていること。

ディプロマ・ポリシー(DP)と科目群

学科		経済学科		留意事項 ■ディプロマ・ポリシーを学力の3要素をふまえ9つの事項で具体的に示している。 ■各学部学科において科目群で達成する9つの事項を具体的に示している。																																													
学力の3要素	事項	ディプロマ・ポリシー(DP)	分類		教養科目						演習科目						専門科目						教・専	キャリア科目			左記の再掲																						
			単位数	30以上	8			4			4			2			2			24			42			2	6			初年次教育	能動的学修	接続科目																	
			科目群	I群	II群	III群	外国語	健康教育	その他	教養演習	数学演習	経済学演習	基礎演習	3・4年演習	研究演習	経済学	マクロ	ミクロ	選択必修科目	自由選択科目	経済学類	商・情報	会計学類	法学類	問答履修	教養専門を履修	キャリア形成	II	III			大学院進学																	
				必修(経済学I・II)、II・III群2単位以上																																													
1	知識・技能	DP1	経済学に関する専門知識の習得	○							○		○	○	○	○	○	○	○	○													○	○	○	○	○												
		DP2	社会科学の種々の問題を的確に捉える幅広い一般知識の習得	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○																					○	○											
2	思考力・判断力・表現力	DP3	社会事象を理論的・創造的に思考する能力の習得									○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○													○	○	○	○	○								
		DP4	社会事象を的確に捉える洞察力と判断力の習得										○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○															○	○	○	○	○						
		DP5	テーマ内容を的確に表現・伝達する日本語・外国語能力の習得											○																											○	○	○	○	○				
3	主体性・態度 (主体性・態度) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度	DP6	社会事象に積極的に参加しようとする意欲と責任感の習得										○																										○	○	○	○	○						
		DP7	多様な人々と協働して主体的に活動するリーダーシップの習得												○																											○	○	○	○	○			
		DP8	生涯にわたって学び続ようとする態度の習得													○																											○	○	○	○	○		
		DP9	社会のルールを守る倫理観の習得																																										○	○	○	○	○

注意: 必要単位数は一部簡略化して表示しています。詳細は履修細則で確認してください。

### 3.3 経営学部 経営学科

下記の条件を満たす学修成果を上げれば、卒業を認定し、学士の学位を授与する。

#### (1) 経営学科で何ができるようになるのか。

##### ① 知識・技能

経営の精神を含むビジネス教養を基礎にして、経営学、会計学、情報・メディア学の知識を習得する。

##### ② 思考力・判断力・表現力

社会、とくに企業のリーダーとして必要なマネジメントする資質を身に付け、社内外の人々と共働、共創できる。

##### ③ 主体性・態度

新事業を創造するため、リーダーシップを発揮し、組織を能動的に動かせるようになる。

#### (2) 特に学位授与に必要な評価基準、資格等

経営に関する問題について論理的に洞察した卒業論文の提出を必要とする。

#### (3) DP9 項目と学位授与に必要な科目群及び単位数との関係

学位を授与されるためには、以下に示す科目の単位数と学力の3要素を満たしていること。

ディプロマ・ポリシー(DP)と科目群

学科		経営学科		留意事項														左記の再掲												
				■ディプロマ・ポリシーを学力の3要素をふまえ9つの事項で具体的に示している。 ■各学部学科において科目群で達成する9つの事項を具体的に示している。																										
学力の3要素	事項	ディプロマ・ポリシー(DP)	分類	教養科目				演習科目		専門科目					専・教	キャリア科目			初年次教育	能動的学修	接続科目									
			単位数	26以上			16		82以上					10以上	6			大学院進学												
			科目群	I群	II群	III群	第1・外国語	健康教育	演習(必修)	2研究	2	2	2	34	30	10	2				2	2	地域社会	国際社会	産業界					
1	知識・技能	DP1	経営学に関する専門知識の習得																											
	一般知識	DP2	社会科学の種々の問題を的確に捉える幅広い一般知識の習得	○	○	○													○											
2	思考力・判断力・表現力	DP3	社会事象を理論的、創造的に思考する能力の習得						○	○																	○	○		
	社会事象を的確に捉える洞察力と判断力の習得	DP4							○	○																		○	○	
	会話・文章力	DP5	テーマ内容を的確に表現・伝達する日本語・外国語能力の習得																									○	○	
3	主体性(主体性・態度)	DP6	社会事象に積極的に参加しようとする意欲と責任感の習得							○	○																	○	○	○
	多様な人々と協調して主体的に活動するリーダーシップの習得	DP7								○	○																		○	○
	生涯にわたって学び続ようとする態度の習得	DP8								○	○																		○	○
	社会のルールを守る倫理観の習得	DP9								○	○																		○	○

注意: 必要単位数は一部簡略化して表示しています。詳細は履修細則で確認してください。

### 3.4 経営学部 商学科

下記の条件を満たす学修成果を上げれば、卒業を認定し、学士の学位を授与する。

#### (1) 商学科で何ができるようになるのか。

##### ① 知識・技能

幅広い一般知識を基礎として、マーケティング、観光、企画開発・デザイン、ファイナンシャルプランニングの各分野に関する専門知識を、相互に関連付けながら習得する。

##### ② 思考力・判断力・表現力

個人や企業、社会におけるビジネス上の課題に対し、専門的知見に基づいた解決策を作成することができる。

##### ③ 主体性・態度

主にフィールドスタディによって、個人や企業、社会におけるビジネス上の課題の解決に向け、多様な人々と協力して取り組む態度を身に付け、社会に貢献することができる。

#### (2) 特に学位授与に必要な評価基準、資格等

商学に関する問題について、理論的、実践的に洞察した卒業論文の提出を必要とする。

ファイナンシャルプランニングコースでは、ファイナンシャルプランニングの資格に必要な各種金融商品、不動産、税制等の幅広い知識に基づき、個人金融資産の分析を行い、それを人生設計に合わせて、資金プランや運用プランを適切に提案することができる知識、技能を習得する。

#### (3) DP9 項目と学位授与に必要な科目群及び単位数との関係

学位を授与されるためには、以下に示す科目の単位数と学力の3要素を満たしていること。

ディプロマ・ポリシー(DP)と科目群

学科		商学科		留意事項		■ディプロマ・ポリシーを学力の3要素をふまえ9つの事項で具体的に示している。 ■各学部学科において科目群で達成する9つの事項を具体的に示している。																					
学力の3要素	事項	DP	説明	教養科目 26以上			演習科目 16			専門科目 82以上					専・教 10以上		キャリア科目 6			左記の再掲							
				単位数			単位数			単位数					単位数		単位数			初年次教育	能動的学修	接続科目					
				12	6	4	4	12	4	2	2	22	40	10	2	2	2	地域社会	国際社会			産業界	大学院進学				
				I群	II群	III群	第1・第2	健康教育	演習(必修)	2研究 4・3 4・3 演習	共通必修科目			選択必修科目	自由選択科目	問教 教養 専 履修を	成 論 I ア 形	II	III								
1	知識・技能	DP1	商学に関する専門知識の習得						○	○	○	○									○						
		DP2	社会科学の種々の問題を的確に捉える幅広い一般知識の習得	○	○	○		○	○	○					○	○			○	○	○						
2	思考力・判断力・表現力	DP3	社会事象を理論的に思考する能力の習得						○																○	○	
		DP4	社会事象を的確に捉える洞察力と判断力の習得						○																	○	○
		DP5	テーマ内容を的確に表現・伝達する日本語・外国語能力の習得				○		○	○																○	○
3	主体性・態度	DP6	社会事象に積極的に参加しようとする意欲と責任感の習得						○													○	○	○		○	
		DP7	多様な人々と協働して主体的に活動するリーダーシップの習得						○	○															○	○	○
		DP8	生涯にわたって学び続ようとする態度の習得					○	○	○																○	○
		DP9	社会の規範を守る倫理観の習得							○				○												○	○

# カリキュラム・ポリシー(CP)

## 1. 教育課程の基本方針

岡山商科大学では、「教育理念」に基づき社会事象を的確に捉え、分析し、創造的に問題を解決することができ、かつ、心豊かさ(文化的知性)を有する人材を育成するために、DP9項目を考慮したカリキュラム、シラバス、評価方法を整備し、学生が学習できる体制を整えている。

なお、評価の指針(アセスメント・ポリシー)については、評価手段(試験、レポート、成果発表等)毎に、DP9項目(Oを付けた項目)について学習目標値 (%) を示すこととする。

## 2. 教育目標

岡山商科大学の掲げる「教育目標」は、「学力の3要素」に基づき、DP9項目を基準にして、CP9項目を構成している。

- (1) 幅広い学習機会の提供(知識・技能)(思考力・判断力・表現力)(主体性・態度)
- (2) 専門学術の振興  
鋭い洞察力と問題解決能力の修得 (知識・技能)(思考力・判断力・表現力)
- (3) 社会的人材の育成  
社会での役割認識と積極的に取り組む意識の理解(主体性・態度)

## 3. CPで学習すべき「学力の3要素」の9項目

CP9項目では、DP9項目の内容との一貫性を確保するために語尾の「習得」を「学習」にしている。

学力の3要素		事項	カリキュラム・ポリシー(CP)	
1	知識・技能	専門知識	CP1	法学、経済学、経営学、商学に関する専門知識の学習
		一般知識	CP2	社会科学の種々の問題を的確に捉える幅広い一般知識の学習
2	思考力・判断力・表現力	思考力	CP3	社会事象を論理的、創造的に思考する能力の学習
		判断力	CP4	社会事象を的確に捉える洞察力と判断力の学習
		会話・文章力	CP5	テーマ内容を的確に表現・伝達する日本語・外国語能力の学習
3	主体性を発揮する態度(主体性を持つて多様な人々と協働し、様々な人々と協働して多様な人々と協働して多様な人々と協働して)	意欲・責任感	CP6	社会事象に積極的に参加しようとする意欲と責任感の学習
		協調性	CP7	多様な人々と協調して主体的に活動するリーダーシップの学習
		持続性	CP8	生涯にわたって学び続けようとする態度の学習
		倫理観	CP9	社会のルールを守る倫理観の学習

## 4. 岡山商科大学の教育の特色

### 4.1 法学部 法学科

#### (1) 特色ある科目構成

法学科では、法学や政治学の専門知識を習得し、これらの専門知識を生かして主体的に社会に貢献することができる人材を育成することを目標としている。そのために、以下の科目と単位数を修得することを必要とする。

##### ① 教養科目

特定の知識に偏ることなく、総合的な知識（一般知識）を身につけ、バランスのとれた思考能力や協調性や倫理性を養うために、教養科目群から 30 単位（うち必修科目 5 単位と選択必修科目 13 単位）以上を修得すること。

##### ② 専門科目

法学、政治学に関する専門的な知識や技能を習得するために、設定している専門科目から 88 単位（うち共通必修科目 14 単位、選択必修科目 12 単位）以上を修得すること。（専門知識）

##### ③ 演習科目

表現力やコミュニケーション能力の育成とともに、大学生としての基礎的な知識と基本的な学習能力の習得を目指し、1 年次から必修科目として設置している演習科目(教養演習、基礎演習、研究演習(3 年)、研究演習(4 年))16 単位を修得すること。(思考力、判断力)、(意欲・責任感、協調性、持続性、倫理観)

##### ④ キャリア科目

社会参加や職業への意識を高め、育成していくためのキャリア科目の 6 単位を修得すること。(表現力、意欲・責任感、倫理観)

##### ⑤ 初年次教育科目

###### (a) 教養演習

初年次 1 年間を通して、文章を読み理解する力、表現する力、要約する力等を養い、大学での学習の仕方を修得する。また集団による討論を通じて、プレゼンテーション能力を養い、グループ学習を通じて、コミュニケーション能力、責任感、協調性を養う。

###### (b) 法律学入門

はじめて法律学を学習する学生のために、法律を学ぶ際に基礎となる事項を講義し、学生が、法律についての基礎的な用語を理解し、使いこなせるようにする。また歴史や経済学などの隣接学問分野との関係を知り、法律専門科目とあわせて、それらの分野の学習計画を自ら考えていく力を養う。(専門知識、思考力、判断力)

##### ⑥ 地域社会、国際社会、産業界等の社会との接続科目



## (a) 警察と法

将来警察官や、消防士を目指す学生のための講義科目であり、警察学校の校長や、警察署長等を務めた警察官 OB が講師を務め、警察官が日常行っている防犯活動や犯罪捜査等の実態について、法的根拠を踏まえて説明する。また現職の警察官や消防官をゲストスピーカーとして招き、警察官や消防士の日常の生活や、仕事のやりがい等について講義し、警察官や、消防士になろうとする意欲を醸成する。(専門知識、意欲・責任感)

### ⑦ 大学院教育との接続科目

特になし。

### ⑧ 能動的学修の充実科目

法学部の複数のゼミで、刑務所見学や裁判所見学を行い、社会事象に積極的に参加しようとする意欲と責任感を養う。

## (2) PDCA サイクル

教員各自の成績評価と学科、科目群での評価の在り方について示す。

### ① 教員個人での PDCA

各科目の評価は、教員各位で実施する。

### ② 科目群、学科、学部での PDCA

科目群、学科、学部で、合格率を含めて評価を実施する。

## (3) DP、CP9 項目と授業科目の特色を示すカリキュラムマップ

科目ごとのシラバスに授業の目的、到達目標(60 点を達成)、授業形態(講義、演習、実験、実習・実技)、授業方法(受動型、アクティブラーニング、フィールドスタディ、問題解決型、その他)と学習させたい CP9 項目の関係を示している。

また、特色ある教育内容については、初年次教育科目、接続科目(地域社会、国際社会、産業界、大学院進学)の項目を設け、該当に○印を付け示している。

① 科目の教育目標から、この科目で学習させる主たる CP9 項目に○印を付け、その重要度を示している。

② 授業計画から、○印を付けた CP9 項目の学習目標値を%で表示している。

③ 評価方法に記載した評価手段(試験、レポート、小テスト、成果発表等)毎に、○印付けた CP9 項目に評価の程度を%で表示している。

## 4.2 経済学部 経済学科

### (1) 特色ある科目構成と履修すべき科目

経済学科では、経済の基礎知識から経済学の理論及びその応用あるいは歴史などの専門的内容までを体系的に学び、経済全体に生じる問題を発見する力やその解決方法について考える力を身につけることを目標としている。そのために、経済学科では、以下の科目と単位数を修得することを必要とする。

#### ① 教養科目

「考える力」の基盤となり、経済学について、専門的に学んでいくための基本的な知識として必要となる教養科目群から 30 単位（うち必修科目 9 単位と選択必修科目 11 単位）以上を修得すること。（一般知識）

#### ② 専門科目

経済学に関する専門的な知識や技能を修得するために設定している専門科目群から 88 単位（うち必修科目 20 単位と選択必修科目 24 単位）以上を修得すること。（専門知識）

コア科目としての「経済学Ⅰ」・「経済学Ⅱ」（教養科目）と「ミクロ経済学」・「マクロ経済学」（専門科目）の合計 8 単位を必修科目として履修し、単位を修得すること。（専門知識）

#### ③ 演習科目

表現力やコミュニケーション能力の育成とともに、大学生としての基礎的な知識と基本的な学習能力の習得を目指し、1 年次から必修科目として設置している演習科目（教養演習、基礎演習、研究演習（3 年）、研究演習（4 年））16 単位を修得すること。（思考力・判断力・表現力）、（意欲・責任感、協調性、持続性、倫理観）

#### ④ キャリア科目

社会参加や職業への意識を高め、育成していくためにキャリア科目 6 単位を修得すること。（表現力、意欲・責任感、倫理観）

#### ⑤ 初年次教育科目

学生の学びのスタイルを大学での「自主的な学び」へスムーズに適応できるように、「教養演習」を専門教育への橋渡しとするための基礎的な知識や能力をレベルアップできるように、「経済学演習」と「数学演習」を必修化している。

#### ⑥ 地域社会、国際社会、産業界等の社会との接続科目

地域社会や国際社会との接続を意識し、地域づくりや産業振興等を中心とした講義「地域政策」、「岡山経済分析」や「アジア経済分析」等、また、金融機関への就職を意識し、適宜ゲストが講義する「経済学特殊講義（金融就職力育成特別演習）」等を用意している。

#### ⑦ 大学院教育との接続科目

大学院との接続を意識し、経済理論（ミクロ経済学およびマクロ経済学）を中心とした講義「特別演習」を用意している。

## ⑧ 能動的学修の充実科目

「教養演習」ではゼミ対抗プレゼン大会またはディベート大会、「研究演習（3年・4年）」ではゼミ対抗プレゼン大会への参加を通じて、能動的学修能力の向上が図れるようにしている。

## (2) PDCA サイクル

教員各自の成績評価と学科、科目群での評価の在り方について示す。

### ① 教員個人での PDCA

各科目の評価は、教員各位で実施する。

### ② 科目群、学科、学部での PDCA

科目群、学科、学部で、合格率を含めて評価を実施する。

## (3) DP、CP9 項目と授業科目の特色を示すカリキュラムマップ

科目ごとのシラバスに授業の目的、到達目標(60 点を達成)、授業形態（講義、演習、実験、実習・実技）、授業方法（受動型、アクティブラーニング、フィールドスタディ、問題解決型、その他）と学習させたい CP9 項目の関係を示している。

また、特色ある教育内容については、初年次教育科目、接続科目（地域社会、国際社会、産業界、大学院進学）の項目を設け、該当に○印を付け示している。

- ① 科目の教育目標から、この科目で学習させる主たる CP9 項目に○印を付け、その重要度を示している。
- ② 授業計画から、○印を付けた CP9 項目の学習目標値を%で表示している。
- ③ 評価方法に記載した評価手段(試験、レポート、小テスト、成果発表等)毎に、○印付けた CP9 項目に評価の程度を%で表示している。

## 4.3 経営学部 経営学科

### (1) 特色ある科目構成と履修すべき科目

経営学科では、企業活動において欠かせないヒト、モノ、カネ、情報に関する理論の習得にとどまらず、組織において、経営者（後継者を含む）や変革型リーダーになれるようにビジネス人材の育成に力を入れている。

経営、会計、情報・メディアの3コース制を敷くが、いずれのコースに所属しようとも、2年生から専門を学び卒業論文までを一貫して指導する研究演習に加えて、各分野の基礎専門科目を共通必修科目として課している。

従来の会計コースとは別に1年次より会計学の学習を重点的に行い、より高度な会計の専門的能力の修得を促進するために会計専門コースを設置している。同コースでは、会計学に関する職業に関心を持たせ、会計専門コースでの学習を卒業後のキャリアにつなげることができるように、目的意識を明確にし学習意欲の向上を狙った「会計学基礎Ⅰ・Ⅱ」を設置している。

一方、選択必修科目として、地域で実際に活躍している経営者を招聘し講義を展開する「岡山経営者論Ⅰ、Ⅱ」や「アントレプレナーシップ論」、「現代ビジネス事情」などにより、経営の精神を磨く。このようなビジネス界の息吹を伝える実学教育により、倫理観に富むビジネスマインドを高め、事業を通じて社会貢献できる人材の育成を行っている。

なお、経営学科では、以下の科目と単位数を修得することを必要とする。

#### ① 教養科目

「考える力」の基盤となり、経営学について専門的に学んでいくための基本的な一般知識として必要となる教養科目群から26単位（うち必修科目5単位と選択必修科目21単位）以上を修得すること。（一般知識）

#### ② 専門科目

経営学に関する専門的な知識や技能を修得するために設定している専門科目群から82単位以上を修得すること。その内訳は、必修科目18単位、選択必修科目34単位、これら以外の自由選択科目が30単位となっている。（専門知識）

基礎的専門知識を習得するため設置されている共通必修科目としては、「経営学Ⅰ」、「簿記論Ⅰ」、「情報処理概論Ⅰ」がある。これら3科目の合計が6単位、研究演習（2～4年）が合計12単位、合わせて18単位を必修科目として履修し、単位を修得すること。（専門知識）

#### ③ 演習科目

表現力やコミュニケーション能力の育成とともに、大学生として求められる基礎的な知識と学習能力の習得を目指し、1年次から必修科目として「演習」を設置している。1年生は「教養演習」で、思考力・判断力・表現力、意欲・責任感、協調性、持続性、倫理観を身に着ける。2年生からの研究演習では、専門を学び4年生に卒業論文を作成する。（思考力・判断力・表現力）（意欲・態度、協調性、持続性、倫理観）

#### ④ キャリア科目

社会参加や職業への意識を高め、表現力、意欲・責任感、倫理観などを学習するため、キャリア科目6単位を修得すること。（表現力、意欲・責任感、倫理観）

## ⑤ 初年次教育科目

大学における本格的な専門科目の学修にスムーズに入れるようにするため、知的生産方法（スキル）と思考法（ケイパビリティ）を習得する「教養演習」に加えて、専門科目についても初年次から履修できる科目を設定している。具体的には、「経営学Ⅰ」、「情報処理概論Ⅰ」などの共通必修科目、そして、「経営学Ⅱ」、「情報処理概論Ⅱ」、「簿記論Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」、「会計学Ⅰ、Ⅱ」「会計学基礎Ⅰ、Ⅱ」、「工業簿記Ⅰ、Ⅱ」、「簿記入門」、「工業簿記Ⅰ、Ⅱ」、「原価計算論Ⅰ、Ⅱ」、「マーケティング論Ⅰ、Ⅱ」などの選択必修科目がある。

## ⑥ 地域社会、国際社会、産業界等の社会との接続科目

社会、産業界と連携を深める科目としては、（一社）岡山経済同友会の協力を得て、岡山県内の企業経営者自らが教鞭を執る「岡山経営者論Ⅰ、Ⅱ」を展開している。

会計専門コースでは、会計学の知識を活用できる公務員である国税専門官に関する理解を深めるために税務署見学や講演会を実施している。さらに、旧・商学部・経営学部出身の税理士を組織化した「商税会」の協力を得て、会計学教育を拡充している。

国際社会対応という点では、日中経済活動を担うビジネスパーソンを養成することを目的する「日中ビジネス比較論」を開講し、日中バイリンガルの外国人教員（中国人3人、台湾人1人）がオムニバスで授業を実施している。

## ⑦ 大学院教育との接続科目

特別な科目は用意していない。

## ⑧ 能動的学修の充実科目

「岡山経営者論Ⅰ、Ⅱ」や「日中ビジネス比較論」等では、アクティブラーニング方式の講義を展開している。

また、会計専門コースでは、就職支援の一環として、税理士事務所インターンシップに1年生から参加できるようにしている。

## (2) PDCA サイクル

教員各自の成績評価と学科、科目群での評価の在り方について示す。

### ① 教員個人でのPDCA

各科目の評価は、教員各位で実施する。

### ② 科目群、学科、学部でのPDCA

科目群、学科、学部で、合格率を含めて評価を実施する。

## (3) DP、CP9 項目と授業科目の特色を示すカリキュラムマップ

科目ごとのシラバスに授業の目的、到達目標(60点を達成)、授業形態（講義、演習、実験、実習・実技）、授業方法（受動型、アクティブラーニング、フィールドスタディ、問題解決型、その他）と学習させたいCP9項目の関係を示している。

また、特色ある教育内容については、初年次教育科目、接続科目（地域社会、国際社会、産業界、大学院進学）の項目を設け、該当に○印を付け示している。

- ① 科目の教育目標から、この科目で学習させる主たる CP9 項目に○印を付け、その重要度を示している。
- ② 授業計画から、○印を付けた CP9 項目の学習目標値を%で表示している。
- ③ 評価方法に記載した評価手段(試験、レポート、小テスト、成果発表等)毎に、○印付けた CP9 項目に評価の程度を%で表示している。

## 4.4 経営学部 商学科

### (1) 特色ある科目構成と履修すべき科目

商学科では、ビジネスの専門知識や技能を習得し、産業界や地域振興に貢献できる人材の育成を目標としている。そのために、マーケティング、観光、企画開発・デザイン、ファイナンシャルプランニングの4コース制を敷き、実践力を養うためのフィールドスタディをはじめ、以下の科目と単位数を修得することを必要とする。

#### ① 教養科目

「考える力」の基盤となり、商学について専門的に学んでいくための基本的な知識として必要となる教養科目群から 26 単位（うち必修科目 5 単位と選択必修科目 21 単位）以上を修得すること。（一般知識）

#### ② 専門科目

商学に関する専門的な知識や技能を修得するために設定している専門科目群から 82 単位（うち必修科目 20 単位と選択必修科目 22 単位）以上を修得すること。（専門知識）

いずれのコースにおいても、ビジネスの基礎となる「ビジネス概論Ⅰ」、「ビジネス概論Ⅱ」、「簿記論Ⅰ」、「情報処理概論Ⅰ」（専門科目）の合計 8 単位を必修科目として修得すること。（専門知識）

#### ③ 演習科目

表現力やコミュニケーション能力の育成とともに、大学生としての基礎的な知識と基本的な学習能力の習得を目指し、1年次から必修科目として設置している演習科目（教養演習、研究演習（2年）、研究演習（3年）、研究演習（4年））16 単位を修得すること。（思考力・判断力・表現力）（意欲・責任感、協調性、持続性、倫理観）

#### ④ キャリア科目

社会参加や職業への意識を高め、育成していくためのキャリア科目 6 単位を修得すること。（表現力、意欲・責任感、倫理観）

#### ⑤ 初年次教育科目

大学における本格的な専門科目の学修にスムーズに入れるようにスタディスキルズ等を習得する「教養演習」を必修としている。また、習熟度クラスも導入し、「マーケティング入門Ⅰ」、「マーケティング入門Ⅱ」、「経済入門Ⅰ」、「経済入門Ⅱ」、「商学のための数学入門」、「簿記入門」、「企業分析入門」、「ビジネスコミュニケーション入門」、「ビジネスリサーチ入門」、「コミュニティビジネス入門」、「ビジネス概論Ⅰ」、「ビジネス概論Ⅱ」（専門科目）の合計 24 単位を用意している。（注：ビジネス概論Ⅰ・Ⅱについては、同じ科目名でそれぞれ習熟度に合わせた2クラスを用意）

#### ⑥ 地域社会、国際社会、産業界等の社会との接続科目

地域社会や産業界等の接続を意識し、地域づくりや観光振興等の実践者を中心とした講義「観光振興論特殊講義」や、適宜ゲストが講義をする「地域づくり論Ⅰ」、「地域づくり論Ⅱ」、「地域マーケティングⅡ」等を用意している。

⑦ 大学院教育との接続科目

特別な科目は用意していない。

⑧ 能動的学修の充実科目

「観光サービス実習」、「商学特殊講義Ⅰ」、「商学特殊講義Ⅱ」、「テーマパークデザイン論」、「観光地計画論」、「博物館実習」は、フィールドスタディ科目として国内外のフィールドに出かけ、能動的学修能力の向上が図れるようにしている。

(2) PDCA サイクル

教員各自の成績評価と学科、科目群での評価の在り方について示す。

① 教員個人でのPDCA

各科目の評価は、教員各位で実施する。

② 科目群、学科、学部でのPDCA

科目群、学科、学部で、合格率を含めて評価を実施する。

(3) DP、CP9 項目と授業科目の特色を示すカリキュラムマップ

科目ごとのシラバスに授業の目的、到達目標(60点を達成)、授業形態(講義、演習、実験、実習・実技)、授業方法(受動型、アクティブラーニング、フィールドスタディ、問題解決型、その他)と学習させたいCP9項目の関係を示している。

また、特色ある教育内容については、初年次教育科目、接続科目(地域社会、国際社会、産業界、大学院進学)の項目を設け、該当に○印を付け示している。

- ① 科目の教育目標から、この科目で学習させる主たる CP9 項目に○印を付け、その重要度を示している。
- ② 授業計画から、○印を付けた CP9 項目の学習目標値を%で表示している。
- ③ 評価方法に記載した評価手段(試験、レポート、小テスト、成果発表等)毎に、○印付けた CP9 項目に評価の程度を%で表示している。

【カリキュラムマップ】

カリキュラムマップ

学 科		教育課程の方針(CP)	岡山商科大学の教育理念に基づき社会事象を的確に捉え、分析し、創造的に問題を解決することができ、かつ、心豊かさ(文化的知性)を有する人材を、ディプロマポリシー(DP)を満たすよう育成する。																						
科目名	授業の目的	到達目標(60点)	授業形態			授業方法			接続科目			評価(方法)手段	学部・学科 カリキュラム・ポリシー(CP)												
			講義	演習	実験	受動型	アクティブラーニング	フィールドスタディ	問題解決型	その他	初年次教育		国際社会	産業界	大学院進学	知識・技能			思考・判断・表現力			主体性・態度			
													CP1	CP2	CP3	CP4	CP5	CP6	CP7	CP8	CP9				
													専門知識	一般知識	思考力	判断力	文章力・会話力	責任感	意欲	協調性	持続性	倫理観			
1	○○○○○○○												到達目標	●		●	●	●				●			
													学習目標(比率)	60%		10%	10%	15%				5%			
													試験												
													小テスト												
													レポート	95%	60		10	10	15						
2	△△△△△△△												到達目標		●			●			●	●			
													学習目標(比率)		60%			20%			5%	15%			
													試験	75%	60								15		
													小テスト	20%				20							
													レポート												
成果発表																									
受講態度	5%									5															
その他																									
													到達目標												
													学習目標(比率)												



## 4.5 教養科目

### (1) 教養科目群および教育目的

本学の教養科目は、以下の5群に分けられ、教育目的に従って、本学の学生としての基礎知識を学習する。

### (2) 科目群毎の教育目的

科目群	教育目的	単位数			
		法学部	経済学部	経営学部	
		法学科	経済学科	経営学科	商学科
<b>I 群 (歴史と社会)</b>	社会は過去からの絶え間のない積み重ねによって現在に至っている。現在に生きる者にとって、過去を主体的に取り扱うことは、現在を理解することだけではなく、未来への展望のためにも欠かすことはできない。このため本群では、現代における社会のさまざまな側面を理解し考察するために社会と歴史との関連を学習する。	2以上	4以上	4以上	4以上
<b>II 群 (文化とコミュニケーション)</b>	現代社会は急速な勢いでグローバル化が進展している。これらを理解し対応するために、自らの社会だけでなく異なる習慣や文化を持つ人々や社会について理解を深める視野の育成が必要である。また理解だけでなく、他国の人々とともに発展するため、自らの考えや文化を発信し相互のコミュニケーションを深めるための知識を学習する。	2以上	2以上	4以上	4以上
<b>III 群 (自然と人間)</b>	人間社会は自然からさまざまな恩恵を受けて文明を発展してきた。その発展過程で生み出された自然科学を中心に、その技術や技法と社会のかかわりを論理的に考える資質を学習する。近年では、科学発展の一方で、資源枯渇や環境破壊・保護の必要性などが地球規模で社会に大きな影響を及ぼしつつある。そこで、自然と社会の調和を図り、これら諸問題解決を目指すための知識を学習する。	2以上	2以上	4以上	4以上
<b>第1・第2外国語</b>	諸外国の言語や文化などを通じて、他国との積極的に交流しようする態度を養い、外国語の音声や基本的な表現に親しみコミュニケーションする能力を学習する。法学部、経済学部では外国語、経営学部では、英語を第1外国語として、英語以外の言語を第2外国語として学習する。	4以上	4以上	6以上	6以上
<b>健康教育</b>	少子高齢社会の到来や進展に伴って、健康を維持し増進させることは人々にとって重要な課題である。この健康問題は単に個人だけの問題だけでなく、医療費や健康保険など広く社会全体の課題になっている。そこで健全な社会生活や家庭生活を送るための習慣や態度を育成する知識や実践を学習する。また、健康維持・増進を図るためにも生涯にわたる運動習慣も大きく寄与する。そこで生涯を通じ運動に親しむ姿勢や技能や、知識も学習する。	4以上	4以上	4以上	4以上

## 4.6 キャリア教育科目

### (1) 教育目的

将来の自己キャリアについて知識習得のために3科目を設定し、全学共通で社会での基本的態度、基本的情報リテラシー、基本的対話法について学習する。

## 4.7 教職課程

### (1) 教育目的

教職課程は、中学校あるいは高等学校の教育職員（以下教職と略す）免許状取得のための課程である。新たな時代の教職には、教科ごとの専門的知識とともに、情報化や国際化の進展や学校教育に巡る諸問題に対応できる高度な資質能力と強固な意志が求められている。このため、将来教員になることを目指す人は、4つの学科ごとに設けられているこの課程を履修することが必要であり、通常の学科コース（主コース）に加え、副コースとして教職コースに所属し、教員としての資質を養うことを目的に教職担当教員の指導のもと学習を行う。

(2) 学部学科と取得できる教育職員免許状の種類および教科

学 部	学 科	免許状の種類	免許教科
法 学 部	法 学 科	中学校教諭一種免許状	社 会
		高等学校教諭一種免許状	公 民
経 済 学 部	経 済 学 科	中学校教諭一種免許状	社 会
		高等学校教諭一種免許状	公 民
経 営 学 部	経 営 学 科	高等学校教諭一種免許状	商 業
	商 学 科	高等学校教諭一種免許状	情 報
			商 業

## 4.8 学生による評価

学修活動に関するアンケート（年1回）、授業評価アンケート（年2回）を定期的  
に実施することにより、学生の視点から講義内容を評価し、全学教職員に状況を広報す  
るとともに評価の高い教員を「GP表彰」し、教育方法の発表を行っている。

### (1) 授業評価アンケート

#### ① アンケート項目

学生の学習時間、学習態度、教員の講義への取組態度等の20項目

#### ② アンケートの集計

集計科目：教養科目、専門科目、演習科目

集計項目：科目群、学科、学部

### (2) 学修活動に関するアンケート

#### ① アンケート項目

科目毎に、学習時間、学習態度、成績等の6項目

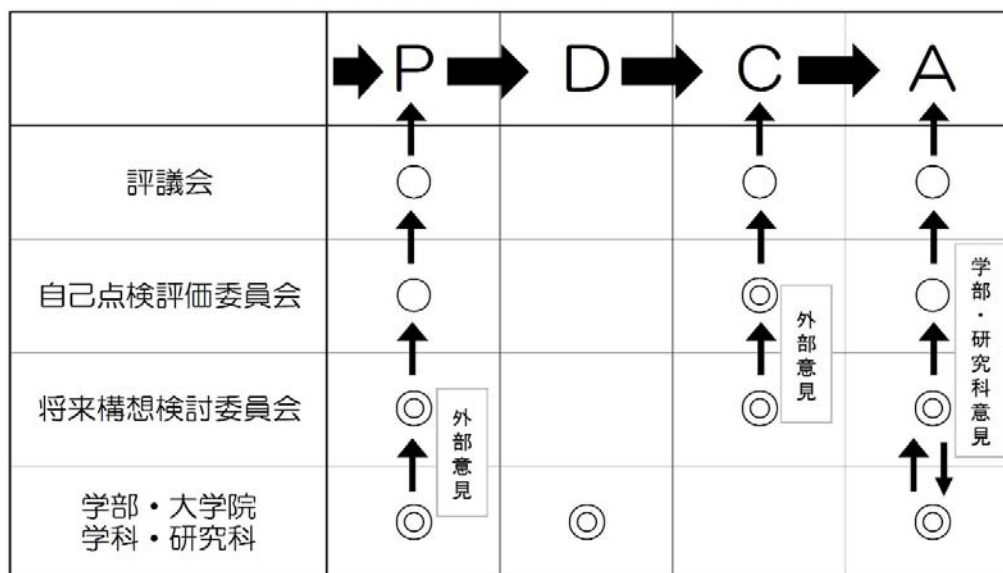
#### ② アンケートの集計

集計科目：学生の履修した全ての科目

集計項目：科目群、学科、学部

### (3) 全学的PDCAサイクル

教育・研究・社会貢献活動の全学的PDCAサイクル



#### 【外部意見】

- ①教育・研究協議会における外部有識者の意見
- ②保護者懇談会における保護者の意見
- ③高校訪問時の意見収集
- ④商業教育についての意見交換会における商業高校の意見
- ⑤文部科学省各種答申
- ⑥RB(リサーチブランディング)分野別研究成果のカリキュラムへの反映

## アドミッション・ポリシー(AP)

### 1. 入学者受け入れの基本方針

岡山商科大学では、「教育理念」に示す社会事象を的確に捉え、分析し、創造的に問題を解決することができ、かつ、心豊かさ(文化的知性)を有する人材を育成することと定めており、これを具現化するために、高大連携アドバイザーによるきめ細かな情報伝達、各種特待生制度を設け、以下の入学試験により、意欲を持つと共に、多様な能力や目的を持った入学生を募集しています。

### 2. APにおける「学力の3要素」の9項目(求める学生像)

CPとの整合性を保つため、AP9項目はCP9項目の説明内容の「学習」を入学生の「学びたい」にしています。

学力の3要素		事項	アドミッション・ポリシー(AP)	
1	知識・技能	専門知識	AP1	法学、経済学、経営学、商学に関する専門知識を学びたい
		一般知識	AP2	社会科学の種々の問題を的確に捉える幅広い一般知識を学びたい
2	思考力・判断力・表現力	思考力	AP3	社会事象を論理的、創造的に思考する能力を学びたい
		判断力	AP4	社会事象を的確に捉える洞察力と判断力を学びたい
		会話・文章力	AP5	テーマ内容を的確に表現・伝達する日本語・外国語能力を学びたい
3	多様な主体性・態度(主体性)	意欲・責任感	AP6	社会事象に積極的に参加しようとする意欲と責任感を学びたい
		協調性	AP7	多様な人々と協調して主体的に活動するリーダーシップを学びたい
		持続性	AP8	生涯にわたって学び続けようとする態度を学びたい
		倫理観	AP9	社会のルールを守る倫理観を学びたい

### 3. 学科別求める学生像

各学部学科では以下の人を求めます。

#### 3.1 法学部 法学科

- (1) 知識・技能
  - ① 法学、政治学を学ぼうとする意欲のある人。
  - ② 一般的な広い知識を学ぼうとする意欲のある人。
- (2) 思考力・判断力・表現力
  - ① 法律上の問題や紛争を解決する力を養おうとする意欲のある人。
- (3) 主体性・態度
  - ① 高い志をもって社会に貢献したいという意欲のある人。

#### 3.2 経済学部 経済学科

- (1) 知識・技能
  - ① 本学部の教育課程を受けるのに必要な基礎学力を備えている人。
  - ② 高等学校での正課・課外に主体的に取り組み、優れた実績をあげた人。
- (2) 思考力・判断力・表現力
  - ① 地域社会や国際社会の活性化に取り組む意欲のある人。
  - ② 社会が培った文化や社会の将来に関心を持っている人。
- (3) 主体性・態度
  - ① チャレンジ精神を持ち、困難なことに取り組む意欲ある人。
  - ② 他者を尊重し、豊かな人間関係を作る意志のある人。

#### 3.3 経営学部 経営学科

- (1) 知識・技能
  - ① 経営学、会計学、情報・メディア学、ビジネス教養に加え、それらを活用し社会に貢献できる経営の精神を学ぶ意欲のある人。
- (2) 思考力・判断力・表現力
  - ① 社会変化、とりわけビジネス現象に関心を持ち、経営的視点から洞察しようとする意欲のある人。
  - ② できるだけ早く将来の進路を決定し、仕事を通じて自分が成長するだけでなく、社会に貢献しようとする強い意志を持つ人。
  - ③ コミュニケーション能力の向上に努める人。
- (3) 主体性・態度
  - ① 自発的、創造的かつ、リーダーシップを発揮できる人材として成長しようとする強い意志を持つ人。

## 3.4 経営学部 商学科

### 3.4.1 商学科

- (1) 知識・技能
  - ① マーケティング、観光、企画開発・デザインに関する知識・技能を学ぶ意欲のある人。
- (2) 思考力・判断力・表現力
  - ① 情報革新とグローバル化に対応したビジネスエキスパートに必要な思考力・判断力・表現力を養う意欲のある人。
- (3) 主体性・態度
  - ① 高い目標意識と将来の志望を持ち続け学ぶ意志のある人。

### 3.4.2 商学科 ファイナンシャルプランニングコース

- (1) 知識・技能
  - ① パーソナルファイナンスを中心として金融諸理論を勉強し、FP2 級技能士・AFP 等の資格取得を目指す人。
- (2) 思考力・判断力・表現力
  - ① 金融に関する諸問題、特に個人の資産形成に対する的確なアドバイスができる思考力・判断力・表現力を養う意欲のある人。
- (3) 主体性・態度
  - ① 高い目標意識と将来の志望を持ち続け学ぶ意志のある人。

## 4. 高等学校段階で習得・経験しておくことが望ましい事項

- (1) 知識・技能
  - ① 高等学校の主要教科科目の教科書レベルの知識を習得している。
  - ② スポーツ、音楽等の技能、特定分野の資格を習得している。
- (2) 思考力・判断力・表現力
  - ① 物事を多面的に思考し、判断し、まとめて自己表現をした経験を有する。
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
  - ① 社会の諸問題に関心を持ち、主体的に他者とかかわり、対話を通して相互理解をする活動に参加した経験を有する。

## 5. 岡山商科大学の入試区分と AP との関係

入試区分の入試の目的、受験科目、AP9 項目との関係は、入試区分マップで示しています。

# (1) 岡山商科大学入試区分マップ

## 岡山商科大学入試区分とAP9項目との関係

教育課程の基本方針(CP)	教育目標	受け入れの基本方針(AP)
岡山商科大学の教育理念に基づき社会事象を的確に捉え、分析し、創造的に問題を解決することができ、かつ、心豊かさ(文化的知性)を有する人材を、ディプロマポリシーを満たすよう育成する。	1. 幅広い学習機会の提供(知識・技能)(思考力・判断力・表現力) 2. 専門学術の振興(知識・技能) 3. 鋭い洞察力と問題解決能力の修得(思考力・判断力・表現力) 3. 社会的人材の育成 社会での役割認識と積極的に取組む意識の理解(主体性・態度)	各学部・学科では以下の知識、能力を学ぼうとする人材を求めています。 1. 法学部法学科 基本的な法知識と解釈能力 2. 経済学部経済学科 経済に関する専門知識 3. 経営学部経営学科 企業という組織の中で創造的に貢献できる能力 4. 経営学部商学科 ビジネスにおける総合理解力と専門的実行力

入試区分	入試の特徴	出題内容等	学部・学科 アドミッション・ポリシー(AP)								
			知識・技能			思考・判断・表現力			主体性・態度		
			AP1	AP2	AP3	AP4	AP5	AP6	AP7	AP8	AP9
			専門知識	一般知識	思考力	判断力	会話・文章力	意欲・責任感	協調性	持続性	倫理観
1	AO入試	本学への強い志望動機を持って受験する者を対象とした入試です。									
		人間性や性格、柔軟性や常識の程度を判断するため、口頭試問、小論文により、思考力(AP3)、会話・文章力(AP5)、意欲・責任感(AP6)を評価します。									
		事前面談									
		課題レポート									
		小論文(事前選考)									
		口頭試問(事前選考)									
2	指定校推薦入試 ・ 指定校推薦編入学試験	高等学校で学んだ秀でた知識、技能等を有する者のための入試です。									
		人間性や性格、柔軟性や常識の程度を判断するため、面接、調査書により、一般知識(AP2)、思考力(AP3)、会話・文章力(AP5)、意欲・責任感(AP6)を評価します。									
		授業を受けレポート作成									
		口頭試問									
		推薦書									
		調査書									
3	専門能力推薦入試	高等学校で学んだ秀でた知識、技能等を有する者のための入試です。									
		人間性や性格、柔軟性や常識の程度を判断するため、面接、自己推薦書により、専門知識(AP1)、意欲・責任感(AP6)を評価します。									
		授業を受けレポート作成									
		口頭試問									
		自己推薦書									
		調査書									
4	一般公募制推薦入試	本学の基礎学力テストにより高校生として学んだ知識により受験する入試です。									
		基礎学力テスト(筆記試験を含む)により、主に基礎となる一般知識(AP2)を評価します。									
		基礎学力テスト(国語)									
		基礎学力テスト(英語)									
		基礎学力テスト(数学Ⅰ・A)									
		調査書									
5	一般入試	得意な選択科目2科目により高校生として学んだ知識により受験する入試です。									
		筆記試験により、主に基礎となる一般知識(AP2)を評価します。									
		コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ									
		国語総合(現代文)									
		世界史B									
		日本史B									
6	大学入試センター試験入試	大学入試センター試験を受験した者のための入試です。									
		高校時代にどの程度の知識を身につけているかを判断するため、筆記試験により、主に基礎となる一般知識(AP2)を評価します。									
		英語									
		小論文									
		口頭試問									
		調査書									
7	編入学試験(2年次、3年次)	本学の2年又は3年次に編入を希望する者のための入試です。									
		小論文、面接により、思考力(AP3)、会話・文章力(AP5)、意欲・責任感(AP6)を評価します。									
		英語									
		小論文									
		口頭試問									
		調査書									
8	社会人入学試験(1年次、3年次)	社会人を対象とした入試です。									
		小論文、面接により、思考力(AP3)、会話・文章力(AP5)、意欲・責任感(AP6)を評価します。									
		小論文									
		口頭試問									
		調査書									
		推薦書									
9	外国人留学生国内入学試験(1年次、3年次)	外国の国籍を有し、外国において通常の課程による12年の学校教育を修了した者を対象とした入試です。									
		日本語、基礎的英語により、基礎となる一般知識(AP2)を、小論文、口頭試問で思考力(AP3)、会話・文章力(AP5)、意欲・責任感(AP6)を評価します。									
		日本語									
		基礎的英語									
		小論文									
		口頭試問									

別表4

## 岡山商科大学 基本方針

### I. 建学の精神

思想	人材
中正な思想	広い視野 社会に貢献
学問と真理	謙虚な情熱 不屈のファイト
産業の現実	文化的知性 創造的に社会の発展

### II. 本学の目的

法律、経済、経営の分野で、  
教育、研究、社会貢献により、  
社会、国家、人類のために有為な人材を育成

### III. 大学の使命・目的

- ① 中正な思想を有する人材の育成
- ② 真理を探究する不屈の精神の涵養
- ③ 産業・社会との連携と貢献

### IV. 教育理念

社会事象を的確に捉える人材の育成  
社会事象を分析し、解決する能力を備える人材の育成  
心豊かな人材の育成

### V. 教育目標

幅広い学習機会の提供 スタンド・ポイントの構築
専門学術の振興 鋭い洞察力と問題解決能力の修得
社会的な人材の育成 社会での役割認識と 積極的に取組む意識の理解

### VII. 中長期目標

多様化社会への大学の質的転換  
①アウトカムを重視した3つの方針展開  
②個性化した多様な学生の育成体制  
③教育・研究の「見える化」による学内外との連携  
④国際化への対応

### VI. 本学の個性・特色(現状)

- ①社会事象に対する実践力・専門力の涵養  
4年一貫ゼミ、学部改組、専攻改革
- ②社会と呼吸する大学としての地域連携・貢献  
地域商大サテライトの設置  
フィールドスタディの実施
- ③教育研究体制の整備  
外部資金(科研費、文科省公募事業、企業等)
- ④国際交流の推進  
本学・国内他大学 大学院進学者数

### VIII. 中長期展開目標

3つのポリシー展開(※)	重点施策
<b>ディプロマポリシー</b> 社会人力 高度職業人 大学院への進学	①教員の教育・研究・社会貢献力 活動レベルの見える化 教育・研究環境の改善 ②学生支援力 フィールドスタディ キャリア教育 国内外でのインターンシップ 高度資格取得 ③募集力 高大連携アドバイザーの強化 学生生活・教育・研究内容の見える化 各種入試特待生制度 ④国際力 東南アジアの国々との連携
<b>カリキュラムポリシー</b> 実践力 専門力	
<b>アドミッションポリシー</b> 多様な学生の受け入れ	

### IX. 学部学科の教育目標

各学部・学科は以下の知識、能力を有する人材を育成する。

- ①法学部法学科  
基本的な法知識と解釈能力
- ②経済学部経済学科  
経済に関する専門知識
- ③経営学部経営学科  
企業という組織の中で 創造的に貢献できる能力
- ④経営学部商学科  
ビジネスにおける総合的理解力と専門的実行力

※3つのポリシー…別表3参照